ACEWELL®

E13 10R-0513513

ATV/オートバイ用多機能デジタルメーター *ACE-MD085-5XX-AB/CP*取扱説明書

この度は弊社製品をお求め頂きまして誠にありがとうございます。この説明書はACE-MD085-5XX-XXシリーズ用に書かれています。シリーズによりタコメーターのスケールが異なり、シリーズにはLEDが異なるモデルが用意されています。説明書の写真が、お手元のモデルとはインジケーター配列などが異なる場合がございます。

パネル説明

1. タコメーター目盛
2. バーグラフタコメーター
3. バーグラフ温度計
4. 1行目：スピードメーター
5. 2行目：他機能表示
6. LED インジケーターランプ
7. シフトワーニングインジケーター
8. リセットボタン
9. モードボタンn
10. ギヤインジケーター
11. バーグラフ燃料計
12. 時計

異なるモデルはそれぞれ異なったLEDインジケーターを装備しています。それぞれのアイコンは以下のとおりです：

Model No	LED Indicators
MD085-X52	
MD085-X54	
MD085-X56	
MD085-X59	

特徴

- タコメーター・スピードメーター・ギヤインジケーター・時計・燃料計・バーグラフ温度計と他の1つの機能を同時に表示。
- 5~7個のLEDインジケーターを装備。
- ギヤインジケーターは速度とエンジン回転数よりギヤポジションを算出。
- 変色可能なバックライトはユーザーが好みの色に設定が可能。
- いくつかのモデルはバックライトを主電源と独立してON/OFF可能。
- 12000rpmフルスケールのバーグラフタコメーターを装備。デジタルタコメーターはフルスケール19900rpm。
- 30km（18.6miles）未満の時、任意の値にオドメーターを設定することが可能。
- 距離タイム計測に加え、加減速タイム計測機能を装備。
- 外気温センサーを装備。.
- パルスタイプギヤスピードセンサーに対応する高速プロセッサーを装備。
- 設定可能ホイール外周長は1～3999mm。
- 燃料計の設定はフューエルセンダーの抵抗値に合わせて+/- 30～80Ω, 100Ω, 250Ω , 510Ω から選択可能。リザーブモードではバーグラフは表示されず、入力信号線が-veに接続されたときに燃料警告を表示。燃料計機能が不要の場合は機能をOFFにすることが可能。
- バッテリー警告は11.0V～14.9Vの間で任意の警告電圧に設定が可能。
- スピードメーターは必要に応じて小数点以下の表示をON/OFF可能。（例：100または100.5）
- ブラケット・回転信号線・ホール又はリードタイプスピードセンサー・PT1/8温度センサー・外気温センサー・フィッティングキット・ワイヤーハーネスを標準添付。
- 優れた防水・耐振動・耐ノイズ設計。

仕　　様

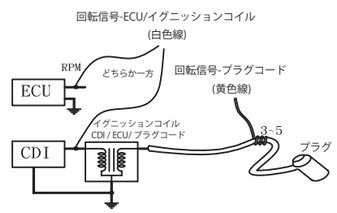
機能	シンボル	仕様
バーグラフタコメーター		12,000 rpm
デジタルタコメーター	RPM	100～19,900 rpm, 100rpm 刻み
最高回転数表示	Max RPM	100~19,900 rpm, 100rpm刻み
スピードメーター	Km/h / MPH	2.4~300.0 km/h (187.5MPH)
トリップ1&2&3	Trip 1/2/3	0.00~999.99 KM/Miles
オドメーター	Odometer	0 - 999999 KM, 0-624999 Miles
最高速度表示	MAX SPD	2.4~300.0 km/h (187.5MPH)
平均速度表示	AVG SPD	2.4~300.0 km/h (187.5MPH)
時計	88:88(AM/PM)	0:00'00" – 11H59'59" / 23H59'59"
アワーメーター	HR Time	0 – 9999H59'
ライディングタイム	R.Time	0 – 99H59'59"
トータルライディングタイム	T.Time	0 – 9999H59'
ギヤインジケーター		N, R, 1, 2,...8 or off
バーグラフ燃料計		1-5 bars, +/- 30～80Ω, 100Ω, 250Ω, 510Ω, off モード or RESモード
電圧計	VOLT	8-18VDC,　警告電圧設定可能
温度計	TEMP1	0℃～180℃ / 32°F～356°F,offまたはHiモード
外気温計	TEMP2	-20℃～60℃ / -4°F～140°F
最高温度表示1&2	MAXTEMP1/2	0℃～180℃ / 32°F～356°F
バーグラフ温度計		1-5 バー または Off モード
距離タイム計測	DstTimer	0 to 1/4 mile. 0 to100Meter, 0 to 400Meter
加速タイム計測	AccTimer	0 to 100km/h, 50 to 70mph
減速タイム計測	DstTimer	100km/h to 0km/h
メンテナンスリマインダー	Maintain	0～9999H / 0～9999Km or Milesに設定可能

電源電圧	DC 8-18V
速度センサー	リードセンサーまたはホールセンサー
タコメーター入力	CDI 、ECU又はイグニッションコイル信号
タイヤ外周長設定範囲	1mm-3999mm (1mm 単位)
温度センサー	サーモセンサー
外気温センサー	エアサーミスタセンサー
外形寸法	Ø85*56.1mm

取付けと部品

タコメーターセンサーの取付け:

1.イグニッションコイルからの信号強度は車種により異なります。
2. 2～5回プラグコードに巻きつけます。巻き数を増やすと信号強度は強くなります。巻き数を減らすと信号強度が弱まります。
3.タコメーターの回路は多くのバイクに使用できるように設計されていますが、車種によっては信号強度が強すぎ、過剰に反応する場合があります。その場合にはセット同梱の１**MΩ**抵抗をセンサー線に割り込ませるように接続することで良くなる場合があります。

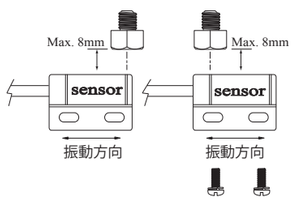


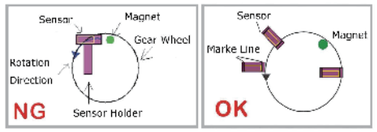
速度センサーの取付:

ACEWELLでは各種スピードセンサーを用意しています。ユニットにはいずれかのセンサーが同梱されています。モデルにより車両の速度信号に接続されることを意図しており、その場合には速度センサーは同梱されません。

リードタイプ速度センサーとマグネット:

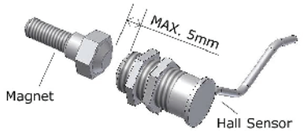
1.このセンサーはオートバイ用に最も汎用性の高いセンサーです。ホイールの回転する部分（一般的にはブレーキディスク固定ボルト）にマグネットを装着します。
2.センサーに記されている位置決め線の中心をマグネットが通過するようにセンサーの取り付け位置を決めてください。
3.センサーは振動方向と垂直に取り付けます。振動方向と平行にセンサーを取り付けることは車両の振動により不具合の原因となります。
4.マグネットとセンサーの隙間が**8mm**以内にあることを確認してください。





ホールセンサーとマグネット（日本未発売）:

1.オプションのセンサーホルダーを併用して**ATV**のリアホイールやオートバイのフロント足回りに取り付ける汎用センサーです。
2.ホイールやドライブシャフトなどの回転する部分で、センサーの検知面を通過できる位置にマグネットを取り付けます。
3.センサーの検知面を磁石の中心が通過するようにセンサーの取り付け位置を決めてください。
4.マグネットとセンサーの隙間が**5mm**以内にあることを確認してください。



メーターワイヤーセンサー（日本向け製品添付品）:

純正の機械式メーターと交換することでメーターワイヤーの回転を電気信号に変換するセンサーです。

温度センサーおよびセンサーアダプター:

1.セットには水温センサーが付属しています。センサーを適切な位置へ簡単に取り付けるために冷却水ホースに割り込ませるセンサーアダプターをオプションで用意しています。（内径**20,22,24,26mm**）
2.センサーアダプターは切断した冷却水ホースにアダプターを割り込ませ、付属の締付け金具で確実に固定します。
3.センサーをアダプターに確実に閉め込んで固定します。
4.サーモスタットが開いてから冷却水を補充し、十分にエア抜きを行なってください。

外気温センサー

1.MD085-5XX シリーズには外気温を測定するための外気温センサーが付属しています。
2.センサーのコネクタをメインユニットのコネクタに接続します。
3.センサーは直射日光など温度の影響が出ない場所に取り付けます。

機　　能

: バーグラフタコメーター

バーグラフタコメーターは 12,000rpmスケールです。

Km/H or MPH: スピードメーター

1.フルスケール399.9Km/h（マイル表示では248.5MPH）で速度を表示します。
2.スピードセンサーからの最高パルス周波数は7KHzです。
3.非常に小さな外周長や非常に大きな分周比を設定した場合、最高パルス周波数 の関係で、速い速度が表示できない場合があります。

RPM: デジタルタコ メーター

1.フルスケール19,900rpmでエンジン回転数を数字で表示します。20,000rpm以上の時には19,999rpmと表示されます。
2.タコメーター信号はCDI 又は Ignition Coilから取得します。

シフトワーニング機能

1.任意の警告回転数を設定して機能を有効にします。
2.シフトワーニングインジケーターは設定回転数に達すると点滅します。シフト操作でエンジン回転数が下がると消灯します。

MAX RPM: 最高回転数

前回リセット操作を行なった以降の最高エンジン回転数を表示します。

MAX SPD: 最高速度

前回リセット操作を行った以降の最高速度を表示します。

AVG SPD: 平均速度

前回リセット操作を行った以降の平均速度を表示します。平均速度はTRIPをRTで割った計算値です。

TRIP 1/2: トリップ 1 or 2

前回リセット操作を行った以降の走行距離を表示します。.

TRIP 3: トリップ 3

1.TRIP3 は燃料警告灯が点灯すると表示され、警告灯が点灯してからの走行距離を表示します。
2.TRIP3 は、燃料が補給され、燃料警告灯が消灯すると自動的に0にリセットされます。

オドメーター:

1.メーター使用開始からの総走行距離を表示します。
2.オドメーターの表示が30Km未満の場合に限り、オドメーターを任意の値に設定することが可能です。任意値として30Km以上の値をセットした場合、または取付け後30Km以上走行してオドメーターの値が30Kmを超えた場合、それ以降、一切の変更ができなくなります。任意値にセットする場合、桁の入力間違いなどに十分注意してください。

R. Time: ライディングタイム

1. 前回リセット操作を行った以降の走行時間を表示します。
2. 走行を開始すると自動的に積算を開始します。

T. Time: トータルライディングタイム

1. メーター使用開始からのエンジン運転時間を表示します。
2. この値はリセットすることができません。

HR Time: アワーメーター

1. メーター使用開始からのエンジン運転時間を表示します。
2. エンジンを始動すると自動的に積算を開始します。
3. この値はリセットすることができません。

: 時計

現在の時刻を12時間制または24時間制で表示します。

TEMP1: エンジン温度計

1. 温度が40℃ or 104°F未満の場合、-L-℃ または -L-°F を表示します。また、180℃ or 356°Fを超えた場合、-H- ℃ または –H-°F を表示します。
2. 設定した警告温度を超えると、液晶表示が点滅します。

TEMP 2: 外気温

外気温を -20℃(-4°F) ～+60℃(+140°F)の範囲で表示します。

MAXTEMP1/2: 最高温度 1 & 2*

前回リセット操作を行なって以降の最高温度を表示します。

Maintain: メンテナンスリマインダー

1.設定された距離または時間から運転した距離又は時間をカウントダウンします。
2.カウントダウンで数値が０になった時、メンテナンスのシンボルが点滅し、メンテナンス時期をお知らせします。
3.メンテナンス後、リセットボタンを長押しすることでリセットすることが可能です。

VOLT: デジタル電圧計

車両の電源電圧（メーターへの供給電圧）を表示します。

: ギヤインジケーター

1.ギヤインジケーター用にニュートラルおよびリバース（４輪用）の配線があり、それぞれ該当のスイッチに接続する必要があります。
2.内蔵ギヤインジケーターは現在速度と回転数からギヤポジションを計算して表示します。
3.ギヤインジケーターを使用する前には学習操作が必要です。

: バーグラフ温度計*

1.5段階のバーグラフで温度を表示します。
2.警告温度をセットすると、下から3番目のバーが、設定した警告温度で点灯するように自動的にセットされます。バー表示1つは15℃を表します。.
3.バーグラフ温度計は設定された警告温度を超えると点滅します。

: 燃料計

1.6段階のバーグラフで燃料を表示します。
2.燃料計を使用する場合、フューエルセンダー抵抗値の設定を「F10 E250」「F10 E510」「F30 E80」「F100 E10」「F250 E10」「F510 E10」「F80 E30」「OFF」から選択します。Fの後の数字は満タン時の抵抗値を、Eの後の数字は残量なし時の抵抗値を表します。「OFF」を選択すると燃料計を画面から消すことが出来ます。「F30 E80」と「F80 E30」は4輪用の設定値です。
3.リザーブインジケーターとして使用する場合、燃料残量スイッチに接続して、メーター側の設定を「RES」モードにセットします。燃料計配線がアースされると警告LEDが点灯します。
4.燃料計機能が必要ない場合は「OFF」を選択します。

DstTimer: 距離タイム計測

1.距離は100mまたは400mにセット可能です。
2.速度信号が入力されると自動的にスタートし、セットした距離を走り切ると自動的に停止します。

AccTimer: 加速タイム計測

1.0～100Km/H加速のタイムが計測可能です。
2.速度信号が入力されると自動的にスタートし、車速が100km/Hに達すると自動的に停止します。

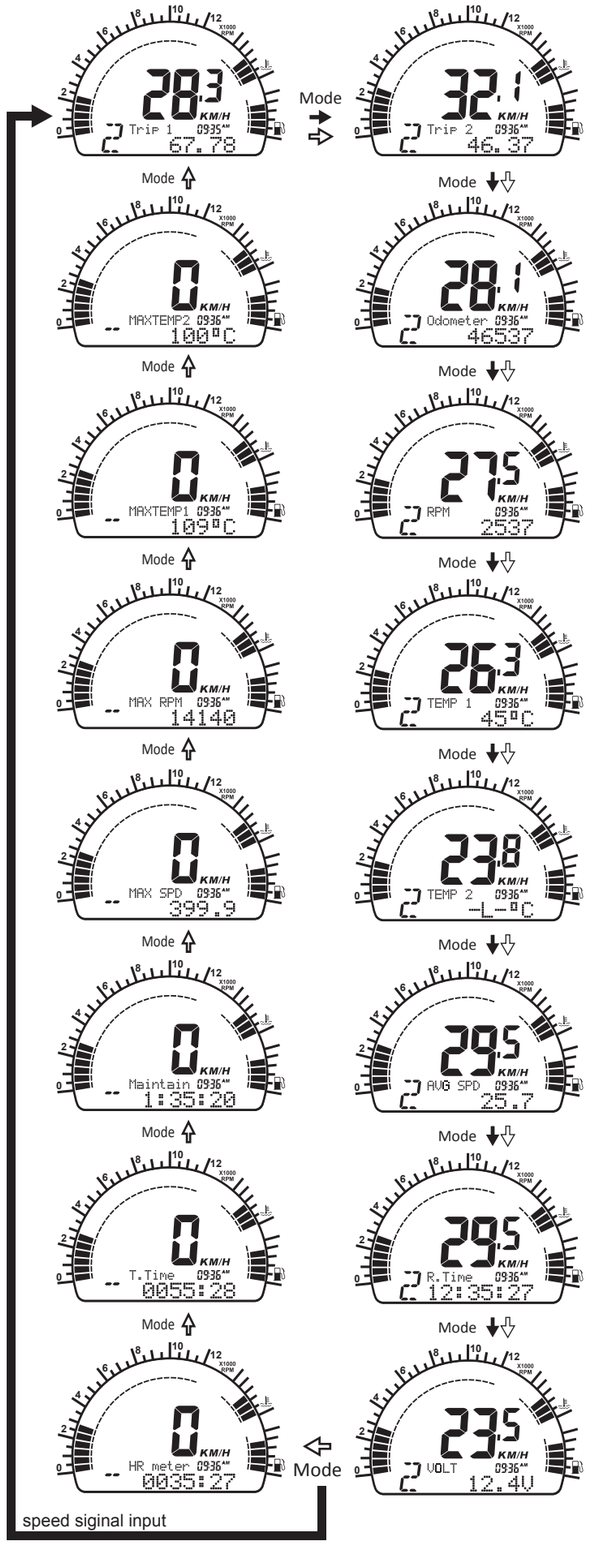
DecTimer: 減速タイム計測

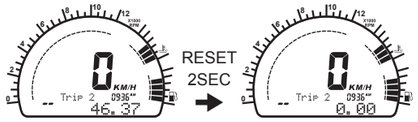
1.100～0Km/H減速のタイムが計測可能です。
2.車速が100km/Hを切ると自動的にスタートし、停止後2秒で自動的に停止します。自動的に測定値より2秒が減算されます。

ボタン操作

MODE ボタン

1.速度パルスが入力されていない時は、MODEボタンを押すごとに、すべての機能が“⇨” の順番に機能が表示されます。
2.速度パルスが入力されているときはMODEボタンを押すごとに “➔”の順番に機能が表示されます。





シフトワーニング回転数設定

1.MODE または RESET ボタンを押してデジタルタコメーターを表示させます。そしてスロットルを開け、警告させたい回転数までエンジン回転を上げます。
2.RESET ボタンを押すと、その時の回転数が警告回転数としてセットされます。
3.以降、設定した回転数までエンジン回転が上昇すると警告LEDが動作します。
4.再設定を行う場合は、デジタルタコメーターを表示させた状態で RESET ボタンを2秒間長押しします。

ギヤインジケーター学習操作:

1.リアホイールを使って速度を検出している場合、安全に固定されたレーシングスタンドなどで車輪を浮かせた状態で学習させることが可能です。フロントホイールを使って速度を検出させている場合、学習操作のために実際に車両を走行させる必要があります。
2.MODEまたはRESETボタンを押して、デジタルタコメーターを表示します。
3.MODE ボタンを2秒間長押しするとギヤポジション数設定モードになります。
4.ギヤインジケーターが初期値の 0 で点滅します。
6.RESET ボタンでギヤポジション数を4～8速の中から選択します。“0” を選ぶとギヤインジケーターをOFFすることができます。
7.MODE ボタンを押すとギヤ比の学習モードに入ります。6.で”0”を選んだ場合には学習操作は終了となります。
8.ギヤインジケーターに「1」が点滅します。ギヤを1速に入れ、車両を発進させ、エンジン回転数を2000～4000rpmの間で一定の回転数となるように走行します。
9.回転数が一定に保たれた状態で約5秒間経過するとギヤインジケーターに「-」が点滅し、「1」の表示となります。これで1速のギヤ比が学習されたことになります。
10.MODE ボタンを押すと1速のギヤ比が記憶され、2速の学習に入ります。
11.ギヤインジケーターに「2」が点滅します。ギヤを2速に入れ、エンジン回転数を2000～4000rpmの間で一定の回転数となるように走行します。
12.回転数が一定に保たれた状態で約5秒間経過するとギヤインジケーターに「-」が点滅し、「2」の表示となります。これで2速のギヤ比が学習されたことになります。
13.MODE ボタンを押すと2速のギヤ比が記憶され、3速の学習に入ります。
14.上の11.～13.の操作を繰り返し行い、すべてのギヤのギヤ比を学習させます。すべてのギヤ比の学習操作が終わった状態でMODE ボタンを押すと通常モード（デジタルタコメーター）に戻ります。学習操作は1速から最終段まで連続して行う必要があります。各段を個別に学習することは出来ません。
15.学習したギヤ比を保存しないで終了するにはMODE ボタンを2秒間長押しして通常モードに戻ります。

距離・加速・減速タイム計測の設定

1.停止中に「T. Time」を表示させます。この状態でRESETボタンを2秒長押しするとタイム計測選択画面に入ります。
2.「SELECT」と「DstTimer」が表示され、MODEボタンを押す度に「DstTimer」「AccTimer」「DecTimer」と計測の種類が変わります。計測したい種類が表示された状態でMODEボタンを2秒長押しすると測定モードに入ります。
3.測定モードではMODEボタンを押すと測定距離などの数値設定が変化します。設定を選べない測定モードの場合は決まった値が表示されます。この状態でMODEボタンを2秒長押しすると測定に入ります。速度センサーからのパルスが入ることで自動的に計測を開始し、測定が終了すると自動で停止します。RESETボタンを押すと前の画面に戻ります。RESETボタンを 2 秒以上長押しすると測定モードを抜けてTrip1画面に戻ります。
4.距離タイム計測の場合、「DstTimer」と「100M」が表示されます。MODEボタンを押すと「400M」に変化し、0-100mを測定するか0-400mを測定するか選択することが出来ます。どちらかが表示された状態でMODEボタンを2秒間長押しすると「00:00:00」に表示が変化し、測定準備が完了した状態になります。速度センサーからのパルスで自動的に計測はスタートし、所定の距離を走りきったところで自動的に停止します。MODEボタンを押せば表示は「00:00:00」に戻り、新しい計測をスタートできます。RESETボタンを2秒以上長押しすると測定モードを抜けてTrip1画面に戻ります。
5.加速タイム計測の場合、「AccTimer」と「0-100」が表示されます。 MODEボタンを2秒間長押しすると「00:00:00」に表示が変化し、測定準備が完了した状態になります。速度センサーからのパルスで自動的に計測はスタートし、所定の距離を走りきったところで自動的に停止します。MODEボタンを押せば表示は「00:00:00」に戻り、新しい計測をスタートできます。RESETボタンを2秒以上長押しすると測定モードを抜けてTrip1画面に戻ります。
6.減速タイム計測の場合、「DecTimer」と「100-0」が表示されます。 5.と同様の操作となります。速度が100km/Hを超え、そこから100km/Hを切った時から自動的に計測を開始します。

タイヤ外周長一覧表（マグネットセンサー用）

1.下表は次の計算式を使用して計算しています。
「タイヤの直径(インチ)×25.4(mm)×3.1416 = タイヤ外周長」
表中の直径はホイールサイズではなく、タイヤを含めた直径であることに注意してください。
2.車両のタイヤ直径（ホイールサイズではなく）を確認して下表より外周長を求めてください。また、この表を使わなくても「タイヤの直径(mm)×3.1416」で外周長を計算することが出来ます。

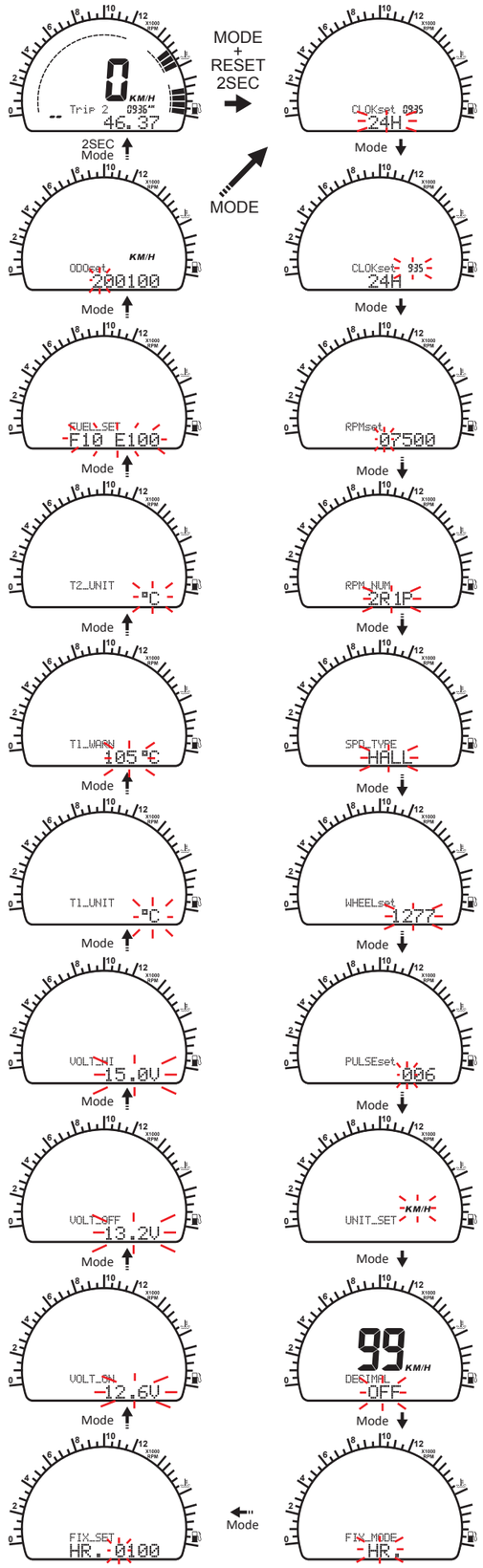
タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)	タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)	タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)
15 inch	1197	19 inch	1516	23 inch	1835
16 inch	1277	20 inch	1596	24 inch	1915
17 inch	1357	21 inch	1676	25 inch	1995
18 inch	1436	22 inch	1756	26 inch	2075

3. 表の数値は概算値です。実際に車両タイヤの外周長をmm単位で測定してメーターに設定いただくことを強くおすすめします。

4. 本機は、速度パルスの間隔を測定して速度を計算します。表の数値はマグネットセンサーを使用し　た場合に限っての数値です。
5. 製品に付属しているメーターワイヤーセンサーを使用する場合、設定数値は「メーターワイヤー軸1回転あたりの距離(mm)」となります。バイクを押してメーターワイヤーを回し、メーターワイヤー軸が360度回転する間に車両がどれだけ進むかをmm単位で計測していただいたものが設定数値となります。一般的な国産車の場合、JIS規格値の「60Km/h＝1400rpm」から計算された715mmという値が設定値となります。ただし、ホイールサイズなどを変更している場合は測定が必須です。
6. マグネットセンサーの場合、マグネットを増やすことができます。マグネットを2個にした場合、分周器の設定を「002」にします。ただし、マグネットの数は2コ程度までに留めるほうが良いでしょう。
7. 本機はスピードパルス分周器（1/2～1/199）を内蔵しています。この機能を利用することでスピードパルス数が異なる、例えば車両に装備されている純正スピードメーター用センサーなどが利用できる可能性があります。分周機能の数値はホイール1回転あたりのパルス数を設定し、スピードメーター機能の数値はタイヤ外周長をmm単位で設定します。純正スピードセンサーの流用についてはその正確なスペックや信号の波形などをよく理解した上でなければ、車両やメーターに対して故障の大きなリスクを生じます。最低限、車両の整備書を熟読して接続が可能かどうかの検討を行なって下さい。この機能に関するお問い合わせの際には最低限整備書の内容が必要となりますので、お問い合わせの前にかならずご用意ください。また、センサーのスペックによっては接続ができない場合もございます。その際には別売のマグネットセンサーをご使用ください。

時計・タコ・外周長・分周・単位・リマインダ・温度・燃料・ODOの設定

1.セットアップモードでは現在時刻、12/24時間制切替、シフトワーニング警告回転数、タコメーターパルス数、速度センサータイプ、タイヤ外周長、スピードパルス数、使用単位、小数点表示、メンテナンスリマインダ、バッテリー警告、温度単位および警告温度、フューエルセンダー抵抗値、オドメーター初期値の各設定を変更可能です。このモードで75秒間全くボタン操作が無い場合には自動的に通常モードへ戻ります。
2.セットアップモードに入るためにはMODEボタンとRESETボタンを同時に2秒間長押しします。セットアップモードの中では、MODEボタンを押す度に設定する項目が移動します。設定される項目は画面上で点滅しています。この状態でRESETボタンを押すと項目の数字が増えたり、単位が変更されたりします。どの画面からでもMODEボタンの2秒間長押しで通常モードへ戻ります。
3.セットアップモードは「CLOCKset, XX:XX」および「12H」または「24H」画面から始まります。12/24時間制を選択して、時計を「時」「分」と順番に設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
4.次に「RPMset」と「06500」表示になります。シフトワーニング回転数をMODEボタンで 1 ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
5.次に「RPM NUM 1r1P」画面になります。出荷時は「RPM NUM 1r1P」となっています。設定には1r1P, 2r1P, 3r1P, 1r2P, 1r4Pの5種類があります。数値の「r」は回転、「P」は点火信号を意味します。例えばエンジン2回転当たり1回の点火信号が発生する車両に装着する場合の設定値は「2r1P」となります。
6.RESETボタンを押すたびに設定値が順番に変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
7.次に「SPD TYPE」と「HALL」または「REED」が表示されます。HALLはAcewell独自の2線式ホールセンサー（付属ワイヤーセンサーも含みます）に使用するモードです。REED はリードセンサー（別売のマグネットセンサー）や3線式のセンサーなどに使用するモードです。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
8.次に「WHEEL set」と「XXXX」表示になります。タイヤ外周長を設定します。4つの数字は外周長をmmで表しています。MODEボタンで 1 ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
9次に「PULSEset」と「001」表示になります。ホイール1回転あたりのパルス数を入力します。付属ワイヤーセンサーやオプションのマグネットセンサーをマグネット1個で使用する場合、設定値は「001」となります。MODEボタンで 1 ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
10.次に「UNIT SET」と「KM/H」または「MPH」表示になります。RESETボタンを押すたびにKm/hとMPHが切り替わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
11.次に、「DECIMAL 99.9Km/H」と「on」または「DESIMAL 99Km/H SPD」と「oFF」が表示されます。小数点以下の表示をするかしないかの設定となります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
12.次にメンテナンスリマインダー設定画面になります。「FIX MODE」と「HR」「OFF」または「DST」が表示されます。DISTでは1000km(621miles)が、HRでは100時間が初期設定値となっています。「OFF」の時には、この機能は無効に設定されています。設定をMODEボタンで 1 ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
13.電圧警告のために「VOLT_ON」「VOLT_OFF」と「VOLT_HI 」の3つの値をせっていします。
14.次に「VOLT ON」と点滅する電圧の数値が表示されます。「VOLT ON」は低電圧警告開始電圧で、この電圧を下回ると警告LEDが点滅します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vです。設定を完了すると、次に「VOLT OFF」と点滅する電圧が表示されます。「VOLT OFF」は低電圧警告終了電圧で、この電圧を上回ると警告LEDは消灯します。設定可能電圧は11.0V～14.9Vですが「VOLT ON」設定電圧より高い必要があります。設定を完了すると、次に「VOLT HI」と点滅する電圧の数値が表示されます。「VOLT HI」は高電圧警告開始電圧で、この電圧を上回ると警告LEDが点灯します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vですが「VOLT OFF」設定電圧より高い必要があります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
15.次に「T1 UNIT」と「 ℃ , ℉ , OFF または HI」が表示されます。RESETボタンを押すたびに温度単位、「OFF」、「HI」表示へと変わります。「OFF」にした場合、メーター上に温度計のバーグラフは表示されなくなります。「T1_UNIT HI」モードはON/OFFタイプの温度センサーに使用することが出来ます。この時、温度表示は表示されなくなります。「T1_UNIT HI」モード時、入力線がアースに接続されると温度警告が発生します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
16.次に「T1 WARN」、「XXX」と 15で選択した温度単位が表示されます。温度警告を開始したい温度を1桁ずつ設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
17.次に「T2_UNIT」と「℃ , ℉ または OFF」表示となります。 RESETボタンを押す度に「℃, ℉ または OFF」表示へと変わります。OFFにした場合、温度計は表示されなくなります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
18.次に「FUEL_SET」と「F10 E100」表示となります。「F10 E250」,「F10 E510」,「F30 E80」,「F100E10」,「F250E10」, 「F510E10」,「F80 E30」,「RES」または「OFF」から選択します。「F」は燃料満タン時の抵抗値を、「E」は燃料残 0 時の抵抗値を表しています。「OFF」に設定した時には燃料計の機能はOFFとなり、メーター上に表示は現れません。「RES」に設定した時には入力線がアースされた時、メーター上に燃料のシンボルが現れ、LEDが点灯します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
19.次に「ODOset KM/H又はMPH と 00000X km」表示となります。1桁ずつ設定値を入力します。オドメーターの表示が30Km未満の場合に限り、オドメーターを任意の値に設定することが可能です。任意値として30Km以上の値をセットした場合、または取付け後30Km以上走行してオドメーターの値が30Kmを超えた場合、それ以降、この設定画面は現れなくなり、一切の変更ができなくなります。任意値にセットする場合、桁の入力間違いなどに十分注意してください。MODEボタンを押すと最初の時計設定に戻ります。2秒間長押しすると通常モードに戻ります。



RESET ボタン

短く押した場合、MODEボタンを押した時と反対周りに機能が表示されます。
1.TRIP2・最高速度・最高回転数・最高温度1又は2が表示された状態でRESETボタンを2秒間長押しするとその数値をリセットして0に戻すことができます。メンテナンスリマインダーの数値は設定されたメンテナンス間隔に戻ります。
2.TRIP1・平均速度・ライディングタイムはいずれかをリセットした時点で残り2機能の値も同時にリセットされます。
オドメーター・時計・アワーメーター・トータルライディングタイムの各値はリセットできません。